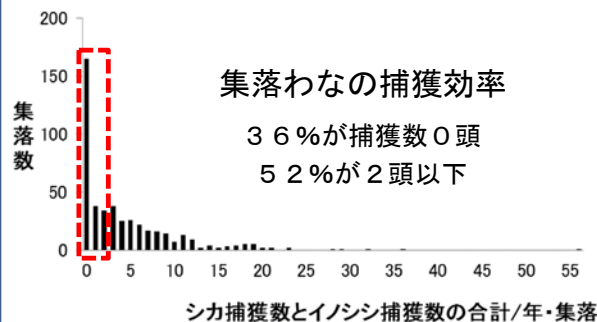


○ 兵庫県では平成25年度から「ストップ・ザ・獣害」と題して、地域に捕獲指導員を配置し、被害集落で捕獲おりを管理しているものの、実績が上がっていない集落に対して、基本的な捕獲手法を指導し、併せてICT捕獲装置を導入することにより飛躍的に捕獲実績が上がり、被害軽減につながっている。

被害地域の課題

集落がわなを購入、または市町から借り受け、集落周辺に設置し、農業者が捕獲班と連携しながら捕獲を進めている集落のうち、平成24年度の捕獲数が判明している460集落の捕獲実績（農会アンケート調査より）



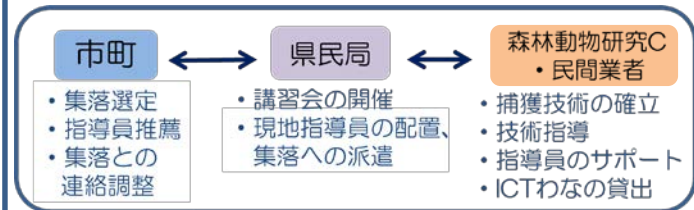
また、兵庫県内で集落が管理する捕獲わなに協力している32地域の有害捕獲班に聞き取り調査した結果、最も大きな運用上の問題点は労力不足で、毎日の餌付けやわなの見回りは、集落の協力を得たいとの回答があった。

	項目	班数
捕獲班が集落の協力を得たいと考えている作業	餌付け	22
	見回り	20
(複数回答)	わなの設置・移動	17
	わな設置場所の選定	9
	その他	3

主な対策

捕獲班・集落・行政の三者が協力して捕獲効率アップ

実績の上がない集落を対象に、集落が捕獲に協力できるように指導プログラムを作成し、市町、県民局、森林動物研究センター、委託事業者が連携して捕獲指導、捕獲班との調整。



ICT機能付きの囲いわなや箱わなを貸し出し、併せて自動撮影動画カメラを設置し、加害獣の行動や餌付けの進行状況を捕獲班、集落住民で共有し、捕獲効率UPと協力体制の強化を進める。



ICT囲いわな

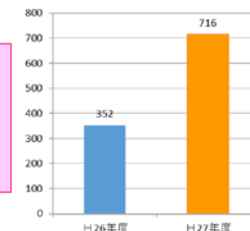


ICT箱わな

対策の効果

○ 捕獲実績UP

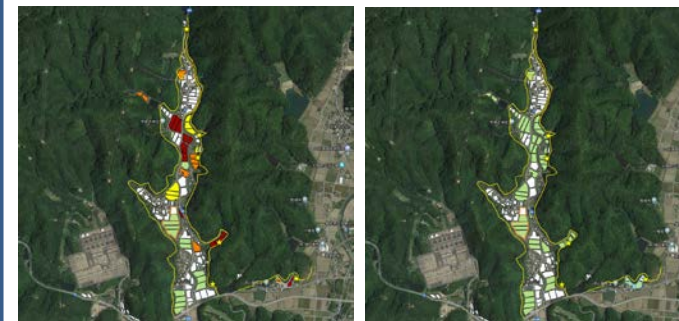
捕獲指導を実施した53集落の事業前年度(H26)と事業年度(H27)の捕獲頭数の合計



捕獲指導を実施した集落の事業前年度(H26)と事業年度(H27)の捕獲頭数



○ 農作物被害の推移



被害率(%) 0-20、20-40、40-60、60~
実施前 実施後

ストップ・ザ・獣害対策(H25～)

きっかけ

- ・檻を設置しても被害が収まらない・・・
- ・被害対策が自己流
- ・誰かに教えてほしい・・・

Step1

問題点は……

被害の多い集落はどこ？
指導する人はいる？

Step2

- ・集落選定
- ・指導員推薦
- ・集落との調整

市 町

Step3

- ・捕獲技術の確立
- ・講習会を開催し、捕獲技術の情報共有
- ・ICTわなの貸出
- ・指導員のサポート

森林動物研究C
兵庫県が設置した県立の野生動物を専門にする研究機関

森林動物研究C、県

集落が捕獲に協力できるように指導プログラムを作成 捕獲効率UPと協力体制の強化を図る

Step4

森林動物研究C、県

現地に指導員を配置し、
ICTを活用した捕獲指導や
柵の維持管理指導

集 落

- ・捕獲指導を受けながら設置やメンテナンスを行う
- ・捕獲班と集落が協力して取り組む

鳥獣被害防止
総合対策交付金

活用

ICT
わな

将来の
取り組み

集落

行政
(県・市町)

捕獲者

森動C

自分達で問題解決

集落が自ら被害対策を
実行する仕組づくり